様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月１３日現在

機関番号：５７１０３
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2007（平成 19）年度～2010（平成 22）年度
課題番号：１９７２００１１
研究課題名（和文）：東アジアの宗族におけるキリスト教思想の影響
－儒教規範に基づく家族制を中心に－
研究課題名（英文）：On the influence of Christianity dogma in the East Asian Family. - Especially the Case of the Family System based on Confucianism Rules. –
研究代表者：安部　力
（ 北九州工業高等専門学校　総合科学科　准教授 ）
研究者番号：６０４３５４７７

研究成果の概要（和文）：従来の東アジア地域におけるキリスト教研究において、地域限定的・断代史的であった個別研究を有機的に関連づけられる視座の獲得を念頭に置き、史料の読解分析と現地調査を活発に行った。現地調査の成果は一連の報告として公表し、史料の読解及び分析については各学会などで報告した。現地調査では現在特に台湾においてキリスト教の様々な側面が仏教や道教との習合的傾向を見せていることを明らかにした。また、史料読解ではそのようなキリスト教が持つ「宇宙観」が、必ずしも正確に理解されていなかったであろうことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：On the conventional Christianity study about East Asia area, I thought that I took acquisition of point of view that will be connected organically the individual treatment study, that were restricted area and period. I performed analysis of historical materials and the field work lively. I announced the result of the field work as a series of reports and reported the analysis of historical materials in each society. In particular, through the field work I made clear that Christianity in Taiwan showed a syncretistic fusion with Buddhism and the Taoism in various sides. In addition, through the analysis of historical materials, I clarified that "Christianity's vision of the universe" would not be necessarily understood precisely.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
１９年度	500,000	0	500,000
２０年度	500,000	150,000	650,000
２１年度	500,000	150,000	650,000
２２年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総　計	2,100,000	480,000	2,580,000

研究分野：人文学・哲学
科研費の分科・細目：中国哲学（2802）
キーワード：東アジア、宗族、儒教、キリスト教、イエズス会、天主教、規範意識、マリア像

１．研究開始当初の背景

本件は、当初、東アジア各地域における「家」（とそれに付随する諸概念）のあり方に焦点を当て、それらの比較を行うことを目的として出発した。それは、従来の、東アジアに伝来したキリスト教に関する研究が、断代史的かつ地域限定式の研究を中心にしていた、という背景があったからである。それは現在もほぼ同じ状況である。

また、明治以降、所謂「先進国化」が「西

洋化」と考えられ、その西洋の文化的基盤を為すキリスト教思想が、東アジア地域にどのような影響をこれまで与え、そして受容されていったのかを考えることは、今後の東アジア地域社会ひいては国際社会における各文化的価値観の融合や衝突を考える上で、貴重な事例となることが予想されたからである。

このような研究的側面や国際社会の関係における背景を持っていたため、本件では、16 世紀の中国・日本を中心としながら、現代の韓国や台湾までをも研究の視野に入れた、時系列及び空間的系列を横断する研究を目標とした。それは、従来の研究成果を活用しながらも、個々の研究成果に通底する問題意識は必ずしも明らかになっておらず、「東アジア地域」の同質性や差異性を考える際に、個別の地域を見るのみでは、当然限界があると考えたからである。このため、東アジア地域の同質性や差異性を浮き彫りにする「物差し」が必要であり、同時にそれは時代に限定されない要素も必要とした。その認識の下、東アジアで重んじられた「家」における意識と西洋の「個」に関する意識が、どのような局面で先鋭的に現れたのか、それをどのように解決・昇華していったのかについて明らかにすることが、「歴史」を将来に生かす視点の獲得につながると考えたのである。

研究担当者である安部は、かねてより東アジア地域におけるキリスト教がどのように受け入れられ、信仰されていったのか、その内実はどのようなものであったのか、またその際に何が文化的思想的障害になったのか、などについて関心を寄せ、考察を行ってきた。本件ではその関心の延長線上に、現代の状況を加味したいと考え「現地調査」の手法を併用することとした。

以上が研究開始当初の研究分野的背景及び問題意識と研究手法に関する背景である。

２．研究の目的

上述の背景及び問題意識のもと、研究課題をクリアするために、以下の要件を考慮した。

まず、個別テーマとして、キリスト教規範（特に「家」）と儒教規範とがどのような文化形態をもって東アジア地域に存在しているのか。また、それは伝来当初において、また現代においてどのような連関を持って存在しているのか。それらは現在、どのように意識されているのか。これらの関心を中心に、研究課題に即しつつ、考察を行うことを目指した。

以上の要件を念頭に置きながら、個別テーマである「規範」を考察する「物差し」として、東アジアにおけるキリスト教信者が直面する「祖先祭祀」の問題を取り上げた。これは、「家（宗族）」的結びつきが強い東アジア地域におけるキリスト教信者の間で、大きな問題となっており、この問題を解決するために、いくつかの手引き書が出版されてもいる。その一つである『天主教的祖先崇敬』の検討を通して、現代におけるキリスト教思想に基づく倫理と、東アジア的規範（儒教・仏教に基づく）を比較し、どのような差異が問題となっているのか、またそれらをどのようにして解決していくのかについて考察した。これは、16 世紀に伝来したキリスト教が、東アジア地域で直面した問題の一つであり、所謂「典礼問題」の要因にもなった事象である。このような「家族」対「個人」という図式として表れる問題は、既に 16 世紀の日本や中国、そして 18 世紀の朝鮮等でも見られる問題である。そしてその解決方法（制度的、心理的）は様々に取られてきた。そのような問題解決の方法は、現代社会におけるキリスト教信者が抱える問題解決の一助にもなるであろうし、引いてはその背後に潜む「家」対「個人」というこれまで衝突しがちであった概念を融和させる示唆を得られると共に、「東」対「西」で語られがちな国際社会の構図、もしくは「先進化」が「西洋（欧米）化」であるとした場合、そこに横たわる問題を摘出する契機にできるであろうと考えたからである。

３．研究の方法

上記の目的及び要件をクリアするために、「現地調査」と「史料読解」を両輪に設定した。それは、16 世紀を中心としながらも、現代までを研究の視野に入れた研究であるためである。しかし、同時に、時間的・空間的な規模の大きさを、如何に処理するかが課題となってもいた。実際に現地調査及び史料読解を平行して行いながら、問題意識が散漫にならないためには非常な労力が必要であった。それらを極力効率的に進めるため、方法として、個別の事例を取り上げ、本件のテーマ（「家」）に即しながら研究を行うことに力点を置いた。更に、各年度において対象とする地域（国）を限定し、それぞれの地域における現代の実情とその地域で形成されている「家（宗族）」についての規範意識を取り上げ、それらが、どのような「歴史的背景」を持っているのかを、史料に依拠しつつ明らかにすることを心がけた。

その後、各地の個別調査、研究を通して得られた事例を体系化し、比較総合を行った上で、東アジア各地域の歴史的・現代的意識の特色（差異点）と共通（共有）点を明らかにする段階へと分析をすすめた。このような方法をとりながら、当初の目的に添って、各年度に於いて台湾、中国、韓国を訪れて現地調査を行い、その結果を集約、発表してきた。

特に現地訪問調査では、キリスト教信者や教会関係者（司祭、同宿など）、教会施設に

勤務する仏教信者の方々へのインタビュー、また史料の探索も行い、極力上記の両輪がスムーズに連関を持って行えるよう留意した。

以上の作業と同時並行的に、関連する研究会や学会へも積極的に参加し、16 世紀当時の日本や中国の状況を、イエズス会士の報告書や著訳書（主に『天学初函』）から探りつつ研究を推進した。

以上が本件を遂行するに当たって用いた主な研究方法である。

４．研究成果

当初の予定とは現地訪問調査の順序に一部入れ替わりがあったが、台湾、中国、韓国をそれぞれ訪れることによって、現在の各国におけるキリスト教徒が置かれている状況やキリスト教の浸透状況、思想的影響を当地の人々への聞き取りなども交えて探るという目的は達成できたと考えている。

台湾へは、本テーマに関する先行調査も含めると計５回、中国へは３回、韓国へは１回の現地調査を行うことができた。これらの現地調査の成果は既に各論考において発表済みであり、今後も公開していく予定である。

このような現地調査を通して得られた知見の中で、当初予想されなかったものも多くある。たとえば、「規範意識」の現れが、台湾では「習合」の様相を見せており、単純な「対立構図」から脱却する示唆になり得るとの印象を得た。またこのような例は「マリア」が「天后」として祀られる、日本のキリシタンにおける「マリア観音」に似た事例の存在など、台湾での現況は「歴史」が現在進行形で形成されていることも実感できた。

その一方で、中国では現在、キリスト教を取り巻く環境変化が激しく、地域差も大きい。更に、キリスト教に関するテーマはセンシティブだからであろうか、教会などでの信者への直接的な聞き取り調査が困難を伴い、信者の「意識」にまで踏み込んだ知見は得られなかった。しかし、それは現在の「中国」（政府）の実情を示しているとも言える。

韓国での調査は時間的な制約もあり、信者の意識そのものよりも、「キリスト教の歴史」がどのように認識されているのか、についての知見が多く得られた。今後はここで得た知見を元に、更に韓国での研究・調査を推進していくことを計画している。それは、韓国は人口比率で考えた場合、東アジア地域では最もキリスト教信者の割合が高く、一方で儒教の影響も色濃く残っている国だからである。

以上が本件に関連して行った現地調査によって得られた知見の梗概である。

これらの基礎的な現地調査と同時並行で、当初のテーマでもある「東アジアにおける 16 世紀のイエズス会士の活動」についても研究を進め、全体像を明確にする一助とした。例えば、日本中国学会において行った、『天学初函』に関するする発表は、当時の東アジア地域に於いて、必ずしもイエズス会士がもたらした「ヨーロッパ的宇宙観」が正確には理解されていなかったであろう事を明らかにした。

このような知見によって、これまで地域限定的・断代史的な個別研究を見渡す視座を得ることができたと考える。そして、本件が示した視座は、今後の個別研究を有機的に関連づけると同時に、それぞれの個別研究そのものに一層の深化をもたらせられると考えている。

以上が、本件の遂行によって得られた成果である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計６件）

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

・安部力「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察（一）－祖先祭祀をめぐる問題－」（『北九州工業高等専門学校研究報告』第 41 号、113～122 頁、2008 年、査読有）

・安部力「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察（二）－「天后聖母」について－」（『北九州工業高等専門学校研究報告』第 42 号、135～144 頁、2009 年、査読有）

・安部力「現代中国におけるキリスト教の状況に関する一考察（一）　－寧波、上海地区を例として－」（『北九州工業高等専門学校研究報告』第 43 号、2010 年、129～138 頁、査読有）

・安部力「韓国“西学”関連探訪記」（『北九州工業高等専門学校研究報告』第 44 号、2011 年、139～146 頁、査読有）

・安部力（他６名）「鄧豁渠『南詢録』訳注（一）」（『活水論文集』 現代日本文化学科編、第 53 巻、35～60 頁、2010 年、査読無）

・安部力（他６名）「鄧豁渠『南詢録』訳注（二）」（『活水日文』 現代日本文化学会編、第 52 巻、1～22 頁、2011 年、査読無）

〔学会発表〕（計３件）

・安部力「『天学初函』『坤輿万国全図』などに代表される明朝末期に伝来した洋学の系譜及びそれらの日・中・韓への影響」（2008 年度日本思想史学会、2008 年 10 月 19 日、愛知教育大学）

・安部力「『天主実義』における『天』について（及び「西洋学術」の東アジアにおける影響）」（「東アジアにおける文明の衝突と「天」の観念の変容」に関する研究報告発表会、2009 年 8 月 8 日、弘前大学）

・安部力「『天学初函』における『職方外紀』の位置について　－イエズス会士が伝えたもの－」（第 62 回（平成 22 年度）日本中国学会、2010 年 10 月 10 日、広島大学）

〔図書〕（計１件）
・安部力（他 12 名による共著）『竹窓随筆－明末仏教の風景－』（荒木見悟監修、宋明哲学検討会訳注、中国書店、2007 年 6 月）

〔産業財産権〕
○出願状況：無し（計０件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況：無し（計０件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
　本件と関連して、中国における現地調査については、特定領域研究（研究課題番号１７０８３０１２「寧波における知の営みとその伝統 - 学脈・宗族・トポフィリア - 」代表早坂俊廣信州大学人文学部准教授）での成果（デジタルコンテンツ）が発表される予定である。（ＵＲＬなど未定）

６．研究組織
(1)研究代表者：安部　力（ABE TSUTOMU）
　北九州工業高等専門学校
　・総合科学科・准教授
　研究者番号：６０４３５４７７

(2)研究分担者：なし。

(3)連携研究者：なし。